

town



小さな拠点づくり
Creating a small base

私たちの町をご紹介します

谷 「住んでよし」「訪ねてよし」の谷づくりの先へ
未来ビジョン Step 1 2020

小さな拠点づくりを進めることで、いつまでも安心して暮らせる谷地区を目指します。

- 安心して暮らせる**
 - つどいの場
 - 各集落校・お祭り会場
 - ふらっと施設
 - 防災拠点
 - 移動手段の確保
 - 福祉の移動の運行
 - 除雪作業
 - スノーレンジャー
 - 生きがい・人づくり
 - 生涯学習
 - ふるさと教育
- 地域の魅力向上**
 - 交流事業
 - 住居体験
 - 子どもたちへの心のききと聞き
 - 観光客や関係者へのアプローチ
 - 農産物直売
 - 情報発信
 - SNS、YouTube、パンフレットなど
 - FreeWiFi
 - 伝統文化
 - 伝統文化の継承
 - 女性の活躍
 - 女性が活躍する拠点づくり
- 地域産業の振興**
 - 美しい農村環境
 - 干田や畑の保全、再開発
 - 景観の再整備
 - 花畑の整備
 - 特産品の開発
 - ほろろ、ゆげ、やまもも、そば、エビやなぎ
 - 農作物のブランド化

山あり谷あり笑いあり! 安心して楽しく暮らせる谷

飯南町
谷地区
(谷自治振興会)

谷地区は、中国山地の山間部にあり美郷町と広島県三次市に隣接しています。谷自治振興会が中心となって活動に取り組んでおり、自治会輸送や除雪作業などで住民の生活を支え、旧谷小学校を改修した交流拠点施設「谷笑楽校(たにしょうがっこう)」では、笑いあふれる様々なイベントを実施しています。



小さな拠点づくりとは?

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要です。そのため知恵を出し合い、計画をつくって出来ることから少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」です。

小さな
拠点
づくり

idea

小さな拠点づくり

Creating a small base

私たちの アイデア

飯南町

谷地区

(谷自治振興会)



地域に安心を運ぶ 「せせらぎ号」の運行

まちのひとの声



「自宅まで迎えに来てもらえるのでありがたい」と感謝の声をいただいています。その声や笑顔があるのでやりがいを感じています。

目標

高齢化が進む中、担い手の確保が必要です。そこで、未来の谷地区を住民全員で支えていくため、若者の意見も取り入れた「谷 未来ビジョン」を2020年に策定しました。地区住民はもとより地区外に住む出身者にも情報発信し、交流を行う中で新たな担い手を確保していきたいです。

活動内容

公共交通機関が不便なために買い物や通院等に困っている住民を助けて、谷自治振興会のメンバーが運転手となり、区内移動やバス停・役場・金融機関等に送迎する自治会輸送を行っています。運行車両「せせらぎ号」は飯南町から無償貸与されたワゴン車。利用希望者は事前に予約し、燃料費相当を実費として負担しています。

きっかけ

道路や水道などの生活インフラの整備が長年の課題でしたが、行政に要望を続けて一つ一つ実を結んで行く中で住民の結束力が強くなり、課題解決に向けた意識が育まれました。行政の支援を受け、2004年に「谷自治振興会」を設立。各自治会からの委員数を多くすることで主体となる住民を増やし、「住民が主役の地域づくり」を目指した体制づくりを進めました。役員を中心に話し合いを重ね、2006年には地区の活動計画である「谷自治振興会地域計画」を策定し、多様な取組を行っています。



小さな拠点づくりとは？

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要です。そのために知恵を出し合い、計画をつくって出来ることから少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」です。

小さな
拠点を
づくり

idea

小さな拠点づくり

Creating a small base

私たちの
アイデア

飯南町

谷地区

(谷自治振興会)



雪かき戦隊
「スノーレンジャー」

目標

活動内容

きっかけ

高齢化が進む中、担い手の確保が必要です。そこで、未来の谷地区を住民全員で支えていくため、若者の意見も取り入れた「谷 未来ビジョン」を2020年に策定しました。地区住民はもとより地区外に住む出身者にも情報発信し、交流を行う中で新たな担い手を確保していきたいです。

谷地区は積雪が多く、高齢化等により自宅前の雪かきも難しい世帯が多くあります。その支援のため、50～70歳代のメンバーが「スノーレンジャー」を結成。利用者は1時間1,500円で除雪作業を依頼できます。多い年には出勤回数が80回に上ることも。

道路や水道などの生活インフラの整備が長年の課題でしたが、行政に要望を続けて一つ一つ実を結んで行く中で住民の結束力が強くなり、課題解決に向けた意識が育まれました。行政の支援を受け、2004年に「谷自治振興会」を設立。各自治会からの委員数を多くすることで主体となる住民を増やし、「住民が主役の地域づくり」を目指した体制づくりを進めました。役員を中心に話し合いを重ね、2006年には地区の活動計画である「谷自治振興会地域計画」を策定し、多様な取組を行っています。



小さな拠点づくりとは？

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要です。そのために知恵を出し合い、計画をつくって出来ることから少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」です。

小さな
拠点
づくり